



ていがくねん
低学年におすすめ！



『もみじのてがみ』

(作・絵；きくち ちき / 小峰書店)



「てがみだよ てがみだよ」つぐみがくちばしにくわえてきたのは、ねずみあての^{てがみ}手紙。それは、^ま真っ赤に^{こうよう}紅葉した、もみじの^は葉っぱの^{てがみ}手紙でした。ねずみは^{てがみ}手紙の^{へんじ}返事を書くために、りすやひよどりといっしょに^{もり}森へもみじを^{さが}探しにでかけます。

^{あき}秋の^{みの}実りが^{いろ}色あざやかに^{えが}描かれた、^{うつく}美しい^{えほん}絵本です。

『ワタナベさん』

(作・絵：北村 直子 / 偕成社)



ワタナベさんは、なべひとつでおいしい^{りょうり}料理をつくる^{めいじん}名人です。おでんにちゃんこなべ、ロールキャベツ、たきこみご飯…お^{はん}客さんのために、^{きやく}次々と^{つぎつぎ}料理を^{りょうり}完成^{かんせい}させていきます。ところが、^{さいご}最後のお^{きやく}客さんから、^{おも}思わぬ^{ちゅうもん}注文が入ってしまい……!?

ワタナベさんの^{つく}作るほかほかの^{りょう}料理に、^{こころ}心があたたかくなりますよ。



ちゅうがくねん

中学年におすすめ！



『落ち葉のふしぎ博物館』

グッチョ先生の落ち葉コレクション』

(文・絵：盛口 満 / 少年写真新聞社)

落ち葉には、不思議がいっぱい。同じ木の落ち葉でも、葉っぱの形や大きさ、色づき方はそれぞれ違います。木の葉が落ち始めると冬が近づくさびしさを感じますが、落ち葉の下は集まってきた虫たちでとてもにぎやかなのです。

いろいろな不思議がつまった、落ち葉の世界をたんけんしよう！



『おじいさんは川へ』

おばあさんは山へ』

(著：森山 京 絵：ささめや ゆき / 理論社)

ある日、おじいさんは川へ魚つりに、おばあさんは山へキノコ採りに出かけます。なかなか魚はつれず、早めにお弁当を食べて昼寝をしたおじいさん。目を覚ますと、そこには子どもたちにいじめられているカメがいました。そのころ、おばあさんは、天女の羽衣を見つけて……。次々とあらわれる昔話の登場人物に、思わず笑ってしまう一冊です。



こうがくねん
高学年におすすめ！



『夜の小学校で』

(作・絵：岡田 淳 / 偕成社)

ひるま 昼間のにぎやかさとはうってかわって、しんとしずまり返った夜の学校。そこではどんなことが起こっているのでしょうか？ 小学校で夜の警備の仕事をするようになった“ぼく”が、はじめて見回りをした夜に見たものとは？
ひとつひとつの章が短くて読みやすいので、朝の読書や読み聞かせにもおすすめです。



『ぐるぐるの図書室』

(著：まはら 三桃ほか / 講談社)

ぶたい 舞台は小学校の図書室。図書室の前には、見る子によって内容が違う奇妙なはり紙がはってあります。「やり残したことがある人は、放課後、図書室に来てください。」「家に帰りたくない人は、放課後、図書室に来てください。」その言葉にさそわれて図書室に入ると——!?

もやもやした思いを抱えた5人の小学生が主人公の、5つの不思議なお話。